

令和7年度 府立園部高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階 ・ 実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果(○)と課題(▼)	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>【教育方針】</p> <p>※真理を求め正義を愛する心身の健全な人となること(健全)</p> <p>※進取敢為の性と明朗闊達な風とをもつ人になること(明朗)</p> <p>※敬愛と誠実の心をもって社会に生きる人となること(誠実)</p> <p>【教育目標】</p> <p>Global&Aware(世界へ、思いやりをもって)</p> <p>【スクール・ミッション】</p> <p>附属中学校を併置し、普通科を設置する高校として、国際交流や先進的な探究授業を教育の柱として、高い国際感覚や情報発信能力を身に付け、主体的・協働的に新たな価値を創造し、国際社会で活躍できる人材を育成する。</p>	<p>【成果】</p> <p>○国際交流活動等の充実により、生徒評価で「学校生活に満足している」生徒は前年度より大きく増加した。</p> <p>○オーストラリア姉妹校等への短期留学及び様々な国との交流が活発に行われるようになり、グローバル教育の充実と地域への発信ができた。生徒評価で「海外との交流を積極的にしている」と答えた生徒は97%になった。</p> <p>○ICT活用やパフォーマンス課題を充実させ、授業改善や多面的な評価ができた。「授業がわかりやすい」と答える生徒は85%を超えた。</p> <p>○希望進路の実現のため、多様な進路・進学先への対応を行った。「進路に関しての適切な情報を提供している」と答えた生徒は90%を超えた。</p> <p>○教育相談会議や個別の支援会議、いじめ対策会議の中で情報共有に努め、支援方法を検討し、組織的に対応できる態勢を構築できた。</p> <p>○DXルーム等の新設により、学習環境の改善ができた。</p> <p>【課題】</p> <p>▼園部高校を志望する中学生からの支持は実感できたものの、募集定員を満たすことはできなかった。スクール・ポリシーの具体化と効果的な広報の必要性を感じた。</p> <p>▼生徒評価で「部活動が活発である」と答えた生徒は63%にとどまった。引き続き、安心して生活できる学校づくりとともに特別活動等の活性化に取り組みたい。</p>	<p>(1)スクール・ポリシーの具体化と中高一貫教育の改革を推進する。</p> <p>(2)各教科でのグローバルな視点を取り入れた授業や日本の伝統と文化を学ぶ授業、海外の学生との交流活動を推進する。</p> <p>(3)答えのない課題に取り組み、ICTを活用して自分の考えを相手にわかりやすく表現する教育活動を行う。</p> <p>(4)グローバルな視点や科学的な思考力を基盤としながら新たな価値を創造する教育活動を行う。</p> <p>(5)多様な考え方を認め、多くの人と繋がり、協働しながら集団の意見をまとめる能力を養う。</p> <p>(6)人権尊重を基盤とした社会生活で必要となる資質・能力を身に付け、生徒が主体的に学校生活を充実させる態度を育成する。</p> <p>(7)生徒会活動や学校行事、部活動等の特別活動を活性化し、主体的・協働的に社会に貢献できる資質を養う。</p> <p>(8)安心・安全を感じられるホームルーム運営と教育相談・支援体制をさらに充実させる。</p> <p>(9)積極的な情報公開等による小・中学校や地域との連携を推進し、地域の力を教育活動に取り入れるとともに地域の活性化に寄与する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	中間	評価	成果と課題 次年度に向けての改善点	
組織・運営	中高一貫教育の充実	高等学校と附属中学校がさらに連携を深め、6年間をとおした指導計画及び指導体制のもと教育内容やカリキュラムを充実させ、附属中学校の志願者増を目指す。	B	B	4	中高連携に係る教員を1名配置し、連携がスムーズに行われるよう配慮した。各教科で中高一貫コースの6年間を見通した進度や内容について共通理解を図る取組を今後進めていく。附属中学校は、入学定員を満たすことができた。
	国際理解教育の推進	オーストラリアやフランスとの交流を、各学級に割り当てることにより、多くの生徒が交流できる機会を設け、興味のある生徒が一步を踏み出そうとする行動力を育成する。	B	B		オーストラリア語学研修を再開し、参加生徒16名が無事研修を終えることができた。参加者にとって貴重な体験となった。キングス校は、本年度来日できなかったが今後も交流を続けていく。また、多くのクラスで交流を受け入れることで、英語が得意な生徒や国際委員だけでなく学校全体に交流の機会が広がった。オーストラリア、フランス、デンマーク、台湾等、生徒同士が関わったことをきっかけに獲得したグローバルな視点を、総合的な探究の時間等の探究活動に活かす方策について授業や行事の計画段階から連携していく必要がある。
	特色ある教育内容の発信	パンフレット、ポスター、ホームページ、For the FUTURE、学校説明会等を十分に活用して、園部高校の教育活動の意義や魅力ある情報を発信し、志願者の増加に努める。	B	B		For the FUTURE(特別号含む)を定期的に発行し、学校の様子をタイムリーに伝えることができた。また、地元の報道機関のほか、教育記者クラブへの広報を活用することにより、新聞への掲載回数が増加し、全国紙の地方版にも掲載が広がった。今後も学校の広報に積極的に取り組んでいく。オープンスクールの中学生の参加者数を、一層増加させる必要がある。生徒は、学校説明や校内見学ツアーで、在校生ボランティアとして活動の場を広げることができた。
学習支援	学習習慣の定着	予習・授業・復習等、日々の学習をとおして家庭学習や自主学習の習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図るとともに、取組を継続させる。	B	B	4	授業はもちろん予習、復習等、教科の特徴に応じて基礎学力の定着に必要な課題等を用意できた。個別の対応が必要な生徒に対しては、放課後等の時間を活用し、計画的に学習指導を行った。今後は、生徒一人一人が自主的に学習に取り組めるような働きかけを工夫し、一層進めていく。
	学力の向上の取組	コースの特色に応じた課題を設定し、言語活動を充実させるとともに、コミュニケーション能力の向上を図り主体的に学習に向かう姿勢を養う。	B	B		パフォーマンス課題や、ペアワークを効果的に取り入れることによって、一定の知識の獲得、考察などの活動をとおした探究的な活動に取り組むことができた。中には、課題の提出状況や学習内容の理解について不十分さが見られたため、テスト後の振り返りや授業内での確認問題など、細かな段階を踏んだ知識定着を図っていく。
	授業改善の取組	パフォーマンス課題の効果的な設定や観点別評価を意識した授業を計画し、授業改善に繋げる。	B	B		今年度も夏季休業中に、外部講師を招いて、観点別評価とパフォーマンス課題の教職員研修を実施し、実践発表やパフォーマンス課題の設定など、考えられるさまざまな評価方法を研修した。今後は、教科間での評価の基準を整える必要がある。
	ICT教育の充実	BYODに対応したタブレットの有効な活用をはじめ、DXルームの効果的な活用について研究を進め、効果的な活用をとおして知的好奇心を高め、学力向上を図るとともにデジタル人材育成のための施設及び教育内容の充実を図る。	B	B		DXルームの使用に関する研修会を行ったり、DXルームを使用して会議を行ったりすることができた。今後の活用方法について、研究を深めていく必要がある。また、効果的なタブレットの活用方法について、研究授業や公開授業をとおして研修することができた。

評価領域	重点目標	具体的方策	中間	評価	成果と課題 次年度に向けての改善点	
生徒支援	基本的な生活習慣の確立	遅刻や授業の無断欠課、身だしなみについての個別指導など、生活習慣の確立と高校生としてふさわしい行動ができるような指導をとおして、落ち着いて授業を受ける環境をつくる。	B	B	4	無断欠課への指導は、学年と連携しながら生徒の背景にある状況を配慮しつつ、迅速に対応した。遅刻に関しては、家庭での基本的な生活習慣等による影響が大きく、指導を継続しても改善につながらないことがある。
	主体的に学校生活を送る態度の育成	生徒会活動、学校行事や部活動に主体的に参加する態度を育成し、充実した学校生活を送れるよう働きかける。	B	B		1年生の部活動加入率は、入学当初、部活動体験を積極的に行ったことで89%となった。部活動体験を行ったことが、生徒の積極的な加入につながったと考えられる。生徒の主体的な活動が広がり、地域と連携したボランティア活動にも積極的に参加するなどの活躍が見られた。
	生徒指導の徹底	いじめ等のトラブルに対し、迅速かつ組織的に対策を講じる。また、問題行動の未然防止のため、生徒の些細な変化を見逃さず、関係分掌と連携した指導を進める。	B	B		各分掌や教科指導の先生からの協力を得ながら、入学当初に高校生としてふさわしい生活習慣や学習習慣を身に付ける環境を整えることができた。またレクリエーションや学校行事を通じて互いを知り、絆を深める機会を設けることができた。遅刻や身だしなみの指導についてはまだまだ課題がある。
	教育相談・特別支援教育の推進	教育相談会議を中心に、個別の生徒の支援を検討し、改善に繋げる。また、必要に応じて積極的に外部機関と連携し、支援が円滑かつ効果的に進むよう努める。	B	B		教育相談会議やケース会議により、個々の生徒の状況から、担任や学年と共に支援を進めることができたことは大きな成果であった。連携の中で、支援に対する理解を得ることに時間を要する場合があるが、引き続き丁寧な対応を心がけていきたい。また、必要に応じて外部機関と連携し、生徒や保護者の困りごとについて迅速にサポートすることができた。
進路支援	コースの特色を踏まえた、個に応じた適切な進路支援	進路行事や説明会等について、学年部と連携しながら各学年、コースの状況や課題を踏まえ、最大限の効果が得られるように工夫する。模擬試験や各種アセスメントのデータ分析を行い、効果的に活用することで適切な進路指導に繋げる。	B	B	4	行事計画をベースに、実施方法や実施内容を必要に応じて見直し、適切に実施することができた。3年生については個々の生徒の進路希望に合わせて、全体での説明会から個に応じた指導など学校全体でサポートする体制を整えた。1、2年生についてはキャリア意識を醸成する様々な取組を早期から実施した。
	生徒の主体的な行動を促す進路支援	多様な進路に対応する情報を収集し、生徒一人一人がこだわりを持った主体的な進路選択ができるよう、進路行事や面談をとおして実現を図る支援を充実させる。	B	B		模擬試験やスタディサポート、学びみらいPASSをはじめとした各種アセスメントの分析結果を学年部や各教科と共有し、各コースの到達目標に応じて必要な指導に必要な情報を整理した。今後は、整理した情報を学年や教科と連携しながら有効に活用し、生徒の進路実現に繋がれるようにする必要がある。
	高大接続、新入試制度研究の継続	今後とも変化する入試制度や高大接続が円滑に進むよう最新の情報収集を行う。特に、新課程入試2年目に向けて情報提供や入試対策に力を入れる。	B	B		学年部と随時情報共有を進めながら、入試に向けて、必要な情報提供や模擬試験・進学補習を実施した。今後、就職・進学希望者ともに、ますます求められる社会人基礎力の養成に向けて、取組を一層充実させ、教科担当者に対して、大学の志望動向や入試制度の変更についての情報提供に努める。
人権教育	人権教育の推進	学年ごとにテーマに応じた人権学習を年2回実施し、人権問題の実態と人権問題に対する適切な理解と認識をもち、人権問題に対する実践的態度を育成する。	B	B	4	学年ごとの人権学習では、当初の計画通り実施できた。1年生で身近に潜む差別や思い込みに気づき、2年生で個別の人権問題についての理解を深め、3年生で人権問題解決に向けた実践的な態度を養うという3年間をとおした取組の枠組みを作ることができた。次年度以降は、各人権学習の内容の深化とその内容に沿った外部講師の選定などをさらに進めていく。
	人権意識の高揚	すべての教育活動をとおして、人権を尊重する心を育む。また、多様性を認め合える意識の醸成を図る。	B	B		各教科の授業や特別活動等において、人権教育の視点を踏まえた取組をおおむね実施できた。今後ますます充実した取組を進めていきたい。
図書館活用	読書活動啓発のための、効果的な広報や図書館行事の企画運営	授業・調べ学習・学校行事等で活用できる資料の収集と提供を行う。また、図書館だよりの発行や図書委員会を中心としたイベントの企画運営を行い、図書活用を促す図書資料の紹介広報に努める。	B	B	4	資料の収集・提供については、学校行事や教科、AI関連の資料を収集し、コーナー展示を企画や小論文対策コーナーの資料を最新のものに更新した。またWEBの蔵書検索システムの実用化などに取り組んだ。また読書の推進、図書館利用の促進のために、図書委員会や図書便りを通じて、情報を活発に発信し、時事や季節ごとの企画やイベントも行い、読書や図書館利用を通じたコミュニケーションの場所づくりに力をいれた。
健康・安全教育	健康教育の充実	本校生徒の健康課題(体の健康と心の健康)に応じた健康教育を推進し、病気の予防や健康増進への意識を高める。	B	B	4	生徒たちの心身の健康について、日々丁寧に対応できた。メンタル面で不調を訴える生徒に対し、今後もひとりひとり丁寧に対応できるよう他の分掌とも協力して進めていきたい。各学年それぞれに実施した講演をとおして、生徒たちが自らを振り返り学習を深めていると感じた。講師の方々と本校の状況に関して打合せをしながら、本校の生徒に合った講演会を今後も実施していきたい。
	教育相談の充実	教育相談会議やケース会議を基盤として、生徒の状況や個性の理解を深め、SCによるカウンセリングを活用しながら、組織的に適切かつ具体的な支援を進める。	B	B		定期的な教育相談会議や必要に応じて開いたケース会議により、個々の生徒に応じた対応策やサポート体制を準備することができた。SCのカウンセリングも活用し、組織的な取組を実施することができた。保護者の理解を得ながら、生徒の学習状況や生活状況から、担任や学年と共に支援を進めることができた事例もあり、今後の参考にしていきたい。
管理	学校運営への効果的な支援	適時、適切な予算執行、他分掌等との調整をとおして、学校運営への効果的な支援を図る。	B	B	4	教科や分掌と調整しながら適切な時期に必要な予算措置を図り、教科指導や学校運営の支援に努めた。選ばれる学校であるために、限られた学校予算の中で何が支援できるか引き続き模索していきたい。
	学習環境の整備充実	施設・設備の安全の確保・充実・適時の就学支援をとおして、生徒の学習環境の向上を図る。	B	B		全体的な老朽化や教育環境が充分とはいえないといった課題がある中ではあるが、校舎内外の安全確保・美化に努めた。適切な時期に就学制度を広報し、就学支援を図った。
家庭・地域連携	家庭や地域社会との連携の強化	家庭・地域社会との適切な連携に努めると共に、小高・中高・高大連携の充実を図るとともに地域の活性化に向けた取組を行う。	B	B	4	生徒会や部活動、ボランティア活動をとおして、地域と連携ができた。また、英語やキャリア教育での小高連携や部活動での中高連携、土曜講座を活用した高大連携も実施した。
学習環境安全管理	安心・安全で充実した教育活動のための施設設備の充実	校舎や設備の安全を確保し、生徒の学習環境の向上に繋がる施設設備の充実を図る。	B	B	4	教室のエアコンの更新ができた。今後未設置の教室に学習環境の向上に繋がる設備を設置していきたい。
学校関係者評価委員会による評価	タブレット等のICT機器の活用、アプリの選択やAIの活用法等の一層の工夫を進めていくことが大切である。AIに頼るのではなく、上手く活用し、自分自身のスキルアップに繋がるような使い方を指導する必要がある。中高一貫、GA、GCのコース間で取組内容が異なるが、生徒間で、それぞれの取組について互いに尊重している様子が見られる。生徒実践発表会でそれぞれの発表を真剣に聞いている姿が見られた。					

評価領域	重点目標	具体的方策	中間	評価	成果と課題	次年度に向けての改善点
次年度に向けた改善の方向性	本校の特色である国際交流をさらに充実したものとするため、地域との連携を深め、活動の幅を広げていく。また、地元の小・中学校と共に活動する機会を増やすなど、校種間連携をとおして、地元の学校に愛着をもつ生徒を育てられるような取組を充実させる。					